

キノチリト云、一名カ子ノコ、備前、子ハナノコ、羽州、コレヲ糕トナシ食フ、ワラビモチト云、南部ニ
テチモチト云、物理小識ニ謂ユル黒腐ナシ、已ニ粉ヲ採リタル渣筋ヲ乾シテ繩トナスヲ、ワラビ
ナハト云、色黒クシテ能ク水ニ耐ユ、

〔農業全書山野菜〕蕨

蕨紫蕨わらびせんまい是皆山中に生じ、田圃に作る物にあらず、此ゆへに委しく記さず、蕨は生にては性あし
く味もよからず、鹽づけよし、ほしたるは出羽の秋田より出る物、柔にして味よし、せんまいも食
様は右に同じ、加賀より出る味尤よし、

〔廣益國產考四〕蕨を掘并に製する事

わらびを掘には、先蕨の肥て生ずる所を見すまし、尖鋏にて掘、其根を繩にてく、り、家に持かへ
り、水にて土を洗らひ落し、偕藁打石のごとく、面よき石の大きなるを居置、其根を石の上にのせ、
かたき木にて拵へたる、柄の長き槌をもて、兩人向ひ合せに居てた、きひしぎ、四斗樽ぐらゐの
桶の口に、箱をのせ、その中にた、きひしぎたる根を入、壹人は杓にて水をかけ、一人は兩手にて
もめば、粕の筋は箱に残り、桶の中は鼠色の水と成る也、偕木綿の豆腐袋のごとく縫たるを、別の
桶の中に入、其袋の中に、右鼠色の濁りたる水を入漉せば、袋の中に細なる粕たまる也、其粕は日
にほし置、あらしき水囊にてふるひ、飯を焚に、其飯の上に木引頃入置、かきませ食すれば、糧のたし
となるもの也、偕桶の中にたまりたる水は、其ま、半日ほど置ば、薄にごりの水となる也、桶をか
たむけ、是をもすたみ捨れば、粉は底にかたまり付居るなり、又少し水を入、棒をもてかきませ、堅
まりなくなるるとき、水を桶九分目ぐらゐに入、棒もて水をくるく、ませ、又半日ほど置ば、元のご
とく粉底に付、水はすみて上にうくを、又すたみとり、又元のごとくすると、三返もすれば、粉の色
白くなる也、白くなるとても、葛天花粉などのごとく、白くはならざるものなり、偕桶そこにおり